

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	多々納 秀行	学校名	昭島市立昭和中学校
実施学年	3学年	教科	国語
单元名	思考のレッスン「具体化・抽象化」		

《学びを深めたいポイント》

- ① 具体化抽象化はということか、そしてその方法はどんなものかを演習を通して理解して、具体化と抽象化を自在にかつ質の高い形で行えるような学び。
- ② 他者の具体化や抽象化を見て、生徒が自分の語彙や具体化、抽象化の力を深めるような学び。

《SKYMENU 活用のポイント》

- ① テキストを入れる場所を複数用意して、問題文の場所は文字を大きく、例文の場所色を変えて分かりやすくした。→問題の分かりやすさ、取り組みやすさ。
- ② みんなのノートを見る機能で生徒たちのノートをテレビ画面に映して、解説した。
→共有の効率
- ③ ・スタンプの種類ごとに点数が違うことを説明して、返却した。
→評価、返却のしやすさ。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	・前単元の「作られた「物語」を超えて」の読解において具体部と抽象部の読み分けを行ったことを振り返る。 ・授業の目標と流れを確認する。 ・光村図書「国語3」P52の「具体化・抽象化」についての説明を行う。		
展開	・ウォーミングアップ:抽象化問題 問い「「空のペットボトル」「破れた新聞紙」「壊れたコントローラー」を抽象化して一言で表そう。」 -ペアで話し合って答える。 ・ウォーミングアップ:具体化問題に取り組む。 問い「優しい人」例えばどんな人? -ペアで話し合って答える。 ・本番:抽象化プリント課題 -各自で考える。 ・本番:スカイメニュー具体化課題に取り組む。 ・書き終わった人から提出する。 ・みんなのノートを共有して、解説や講評を聞く。	・「例えば」「具体的には」という言葉を使って、抽象的な語句の具体的な説明を、発表ノートで書く。 ・提出したあとみんなのノートを見る機能を使って他の人の具体化文章を共有する。	・テキストを入れる場所を複数用意した。 ・問題文の場所は文字を大きく、例文の場所色を変えて分かりやすくした。 ・みんなのノートを見る機能で生徒たちのノートをテレビ画面に映して、解説した。

まとめ	・複数のクラスメイトのノートを見て、授業者の解説を聞いたうえで気づいたことをまとめ、振り返る。自分の具体化の文章を加筆修正する。		・スタンプの種類ごとに点数が違うことを説明して、返却した。
-----	--	--	-------------------------------

《実践を振り返って》

前単元とのつながりや本単元を学ぶ意義を理解させた上で、「具体化・抽象化の実践」が一貫した授業づくりを心掛けた。一貫性はあるながらも、一辺倒な手立てにならないよう、3つのステップに分けてアプローチを変えることができた。それにより、生徒は取り組む内容は一貫して「具体化・抽象化の実践」に変わりはないが、やり方が違うので生き生きと、飽きずに取り組んでいた。

まずは対話的・協働的に具体化・抽象化に取り組み、次にプリントで書いて取り組み、最後にスカイメニューを用いてデジタルで効率的に取り組めた。

発表ノートは感覚的に操作可能で、共有や提出も生徒は手軽に行うことができていた。テキストボックスでの文字の大きさや色変えも、問題の取り組みやすさに繋がっていた。

スタンプの種類が豊富なので、スタンプごとに点数を変えて、返却や評価に関しても、生徒教員ともにわかりやすく行えたように思う。

実践画像



課題：次の言葉の意味を、「例えば」という言葉を使って、具体例を挙げながら説明してみよう。

書き方例：「素直」
「素直」とは、性格や行動にひねくれたところがなく、逆らわずに受け入れる様子である。例えば、友人からの正しい注意を真実に受け止め、心から反省する人は素直だといえる。

① 平和：平和とは戦争やいじめ、喧嘩などがなくみんなが楽しく生きている状態。例えば授業で二人一組で常に会ってしまう人がいても、友達など関係なく一緒に組んでくれる人がいる世界のこと

② 新鮮：新鮮とは新しいもの、生きがいの状態のこと。例えば3年間同じクラスだった友達とクラス替えて離れたときやあまり知らない子と同じクラスになったとき

③ 温和：温和とは穏やかで優しいこと。例えば天気が晴天なとき

④ 圧倒される：圧倒されるとは相手に敵わないこと。例えばオンラインゲームで出会った敵と戦っても勝てないこと。

